

陸上自衛隊が我がまちに



誘致活動に取り組むこと十数年。待望の陸上自衛隊徳島駐屯地が那賀川町小延に完成し、3月26日に開設されました。編成された部隊は、第14施設隊を主力とする約200人。災害復旧を任務の一つとする陸上自衛隊の誕生に、市民から大きな期待が寄せられています。

駐屯地開設は県内初

日本の陸上自衛隊は、北から北部、東北、東部、中部、西部方面隊の5つの大きな部隊に区分されています。善通寺駐屯地(香川県)に司令部を置く第14旅団は中部方面隊に属し、四国の防衛警備、災害派遣などを担当。第14施設隊はその一部隊です。

平成7年11月に策定された「平成8年以降に係る防衛計画大綱」に基づき、昭和56年から約25年にわたり四国4県の防衛警備等を担当していた「第2混成団」が廃止され、「第14旅団」として新編されました。これに伴い増設された第50普通科連隊が、平成22年3月に新設された高知駐屯地(香南市)に移駐し、高知駐屯地に駐屯していた第14旅団施設中隊が、平成24年3月に施設隊に格上げされ、徳島駐屯地(那賀川町)に移駐しました。陸上自衛隊駐屯地の開設は、徳島県内では初めてです。

◆第14施設隊

第14施設隊は四国で唯一の施設部隊で、徳島駐屯地の主力部隊です。障害の構成・処理、陣地構築に要する各種重機を保有し、それらの器材を使用した旅団全般の支援を任務とするほか、災害派遣や民生協力活動でも幅広く活躍しています。

◆施設隊を支える部隊

徳島駐屯地には、施設隊のほかに車両や重機の改修・整備などで施設隊を支援する施設整備小隊や、駐屯地の維持・管理を任務とする業務隊、駐屯地所在隊員の給与業務や調達業務を担う第440会計隊、駐屯地内の通信电信业务やシステムの維持業務を受け持つ第323基地通信中隊徳島派遣隊が所在しています。



完成した庁舎棟(右)と隊舎棟。阿南宿舍および用地取得費等を含む総事業費は約70億円。

徳島駐屯地施設の概要

徳島駐屯地は阿南市の北部に位置し、国道55号バイパスからほど近い田園地帯に開設されました。約11万平方メートルの敷地内には、庁舎棟や隊舎棟、警備所棟、倉庫棟のほか、グラウンドや体育館施設も整備されています。

駐屯地の中央にある4階建ての庁舎棟では、各種部隊が業務を行っています。建物上部の「えんじ色」は、施設隊の職種カラーを表しているそうです。

庁舎棟の西側には単身または独身の隊員が生活する隊舎棟があり、約100人が入居しています。1階の共有部分には、食堂や売店のほか、理髪店や喫茶店もあり、売店では自衛隊グッズやお土産品も販売されています。

建物の北側には資機材を格納した倉庫棟や車両などを整備する整備工場棟があるほか、陸上自衛隊の標準色であるOD色(オリブドラブ)で統一された大型重機がずらりと並んでいます。数種類の車両を連結させて橋脚なしで架けることができる渡河器材は最新式で、配備されているのは全国でもここだけだとか。通常時は、こうした重機の操作訓練や災害を想定した動作訓練が、駐屯地内で行われています。



祝辞を述べる岩浅市長





陸上自衛隊徳島駐屯地および宿舎の誘致・立地推進のあゆみ

《徳島駐屯地》

- H 7.11 「平成8年度以降に係る防衛計画大綱」策定
- H11. 9 旧那賀川町議会「陸上自衛隊誘致促進」決議
- H12. 3 徳島県議会「陸上自衛隊誘致」決議
- H12. 8 「那賀川町自衛隊誘致の会」発足
- H15.12 「施設隊」旧那賀川町に配備決定
- H17.12 陸上自衛隊駐屯地「小延地区」に決定
- H18. 3 阿南市・那賀川町・羽ノ浦町合併
- H21. 5 駐屯地造成土木工事着工の安全祈願祭
- H24. 3 徳島駐屯地開設（3月26日）

《阿南宿舎》

- H19. 8 防衛省「黒地宿舎」予定候補地で予算要求
- H22.11 造成工事・建築工事着工
- H24. 3 落成

誘致・立地推進のあゆみ

平成7年11月に策定された「平成8年以降に係る防衛計画大綱」で、陸上自衛隊が18万人体制から16万人体制へとスリム化が図られたなか、四国の部隊は増強や新編が行われ

た。当時、徳島県には陸上自衛隊の駐屯地はなく、台風や南海地震による大規模災害の発生が懸念されるなど、防災上の観点からも駐屯地誘致の機運が高まりました。

その流れにいち早く乗ったのが旧那賀川町でした。平成11年9月、旧那賀川町議会で「陸上自衛隊誘致促進」が決議され、平成12年2月徳島県議会でも誘致決議がなされたこと

隊員の強固な使命感を支えた一枚の手紙

陸上自衛隊といえば、昨年の東日本大震災での活躍です。発災直後から被災地入りし、3日目には3万6千人が、一週間後には総隊員数の半数にあたる7万人を動員して

幅広い支援活動を展開しました。混乱を極めた被災地現場で、隊を整え黙々と任務を遂行した陸上自衛隊の底力は感に堪えません。

を受け、本格的に誘致に向けた活動が始まりました。

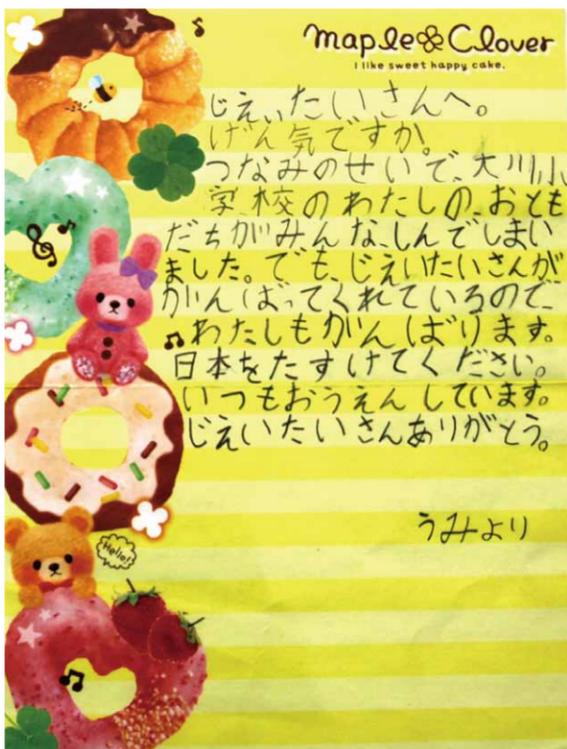
旧那賀川町役場内には「自衛隊誘致検討委員会」が設置され、さまざまな角度から調査・研究が行われる一方で、住民との懇談会や視察研修の開催、国への要望活動も精力的に行われました。そして、多くの方々の理解と協力、誘致への熱い思いが

結実し、平成15年12月に旧那賀川町への施設隊配備が決定しました。平成18年3月以降、自衛隊誘致事業は新市に引き継がれ、建設に向けた説明会や用地取得が行われました。駐屯地建設工事は平成21年5月から始められ、平成24年3月に完成。3月26日には施設隊および業務隊の編成完結式が行われ、徳島駐屯地が開

設されました。広報幹部の伊丹秀喜さん(48歳・善通寺市)は、「すべての活動は被災者のために！」を旅団の活動方針に掲げ、常に被災者の方々の目線で行動することを心掛けました。」と、強い使命感を持って任務に当たった隊員のように伝えていきます。

「被災地の現場では被災者とふれ合う機会も多く、被災者からのねぎらいや感謝の言葉は、隊員の大きな力になりました。」と伊丹さん。全隊員の気持ちを鼓舞させた「うみちゃんの手紙」のエピソードを紹介してくれました。

4月10日、石巻市の追波川(おどぎわ)河川運動公園でのできごと。ワンピース姿の女兒が、宿営地内を歩いていた第14戦車中隊(岡山)の隊員を呼び止め



女兒が陸上自衛隊第14旅団の隊員に手渡した手紙。(同旅団提供)

地域にとって身近な自衛隊

自衛隊活動の一つに、公共性のある行事に参加して地域住民との交流を促進する民生協力活動があります。「そうした活動を通じて地域とのつながりを大切にしてほしい」と期待を寄せているのが、小延協議会会長の浅川 造さん(65歳)です。長年、地元住民の代表として誘致活動にご尽力された浅川さんに、自衛隊に寄せる思いを尋ねてみました。

今思うこと

「那賀川町に駐屯地配備が決まるまでは本当に長く感じましたが、いざ工事が始まってみればあっという間の3年間でした。無事工事も終わり、今はほっとしています。駐屯地誘致は、地域住民の理解と協力なくして実現できなかっただけに、感謝の気持ちでいっぱいです」

地域の新たな活力

「駐屯地開設で約450人(隊員の家族を含む)もの人々が阿南市に移



小延協議会 会長 浅川 造さん

り任んできました。地元商店街では飲食物などを中心に消費が増えているほか、タクシー利用の増加など、さまざまな面で経済効果が生まれています。駐屯地開設は、地域経済の新たな活力となっています」

身近な自衛隊

「隊員の皆さんも活動服(制服)を脱げば地域に暮らす住民と同じです。地元の行事や祭りなどに参加していただき、地域住民との交流を深めてほしいと思っています。また、自衛隊施設を開放したイベントを開催するなど、子どもたちに夢を与え、地域に密着した身近な自衛隊であってほしいと願っています」

「これ読んでください。」と手紙を手渡しました。かわいらしい動物の絵が描かれた一枚の手紙には、覚えてのたどたどしい文字で、「つなみのせいで、大川小学校のわたしのおともだちがみんなしんでしまいました。でも、じえいたいさんががんばってくれているので、わたしもがんばります。」とつぶられていました。「日本をたすけてください。いつもおうえんしています。じえいたいさんありがとう。」とも。その子は、名前も告げずに走り去っていきま

した。津波で児童の7割が死亡・行方不明となった石巻市立大川小学校の児童とみられる女兒から受け取った捜索活動に感謝する手紙は、多くの自衛隊員の心の支えとなったといわれています。

心強い存在

今年1月に内閣府が行った世論調査で、「自衛隊に対する良い印象を持っている」と答えた人は91・7%と、昭和44年の調査開始以来、最高となり、また、東日本大震災での自衛隊の活動にあつては、実に99・7%が「評価する」と答えています。震災対応が自衛隊への信頼を確固たるものとし

ました。自衛官が奉職する際の宣誓文には次のようにあります。

「事に臨んでは危険を顧みず、身をもって責務の完遂に務め、もって国民の負託にこたえることを誓います」

自衛隊のアイデンティティーが、今回の震災で示された意義は大きいと思われ

ます。あれから一年。災害復旧を任務の一つとする陸上自衛隊の駐屯地は、大規模災害に備える本市にとって心強い存在といえます。



歓迎行事で隊員とふれ合う子どもたち。(3月27日)▶

